

高田城下町の自然環境に関する GIS の構築

油 浅 耕 三*

A Build of GIS Mthod in the Natural Environment of the Takada Castle Town

KOUZOU YUASA

Abstract: This study is, from the side of GIS, deals with the natural environment of the Takada castle town . The method of study is the considerations ,base on the maps of castle town , the investigations of the present condition and the geographical descriptions. In this paper, the author attempted, in the lay of the land, the geological features, the water and the vegetations of the Takada castle town, a trial to the application from the GIS mthod.

Keywords: 高田 (Takada), 城下町 (castle town), 自然環境(natural environment), 城下町絵図(maps of castle town), 地理情報システム(GIS)

1. はじめに

地域のあり方を考える時、生活環境という視点は重要なことといえる。この生活環境の歴史的側面に対する考察は大きく遅れている現状にあるといえるだろう。

本論文は、こうした現状を踏まえ、地域全体の歴史的環境の状況を伝える古絵図をもとにした研究を進めようとするものである。

ここでは、越後国高田を取り上げ、城と城下町絵図の表現内容を整理し、特に城下町の自然環境について個々の内容項目の現状を調査し、併せて関係する地誌の内容を総合して、その特質の活用を、「GIS」により広げようとするものである。

2. 高田の古絵図

高田は、徳川の城として慶長19年(1614)、75万石の城として築城された。

現状では、城絵図3枚、城下町絵図15枚、部分的な町絵図6枚を管見することができたが、藩主松平光長時代(寛永元年・1624～天和元年・1681)の絵図が多い。

3. 高田城下町の自然環境

収集した絵図を編年的に整理し、高田城下町の自然環境がどのように描かれているかをみると共に、併せて地誌の内容を取り入れ整理分類すると「図1」のようになる。

*油浅耕三

〒945-1103 柏崎市藤橋1719 新潟工科大学工学部建築学科

TEL&FAX: 0257-22-8168

E-mail: yuasa@abe.niit.ac.jp

また、個々の絵図について自然環境の表現内容がどのようなものであるかを解説する作業が必要であろう（図2参照）。

同時に、自然環境の内容項目についての現状調査を踏まえた解説は、「図3～図6」のような形をとった。

さらに、現状地形図での位置を示したのが「図7」であり、「図1」と「図7」の個々の自然環境項目より「図2から図6」へ、ウェブ上でリンクできる形をとった。

●高田城下町の自然環境 (丸数字は図7と対応)			
△地形		★水	
△①土井	★①井戸	★⑤青田川	★⑨稲荷中江用水
△②堤	★②内堀	★⑥向橋川	★⑩青田川
△③法花坂	★③外堀	★⑦矢代川	
	★④関川	★⑧水道	
▲地質		☆植生	
▲①浅田	▲④土取場	☆①ケヤキ	☆④樹木畑
▲②田		☆②イチョウ	☆⑤ハス
▲③畑		☆③スギ	☆⑥柳橋

図1 高田城下町の自然環境項目

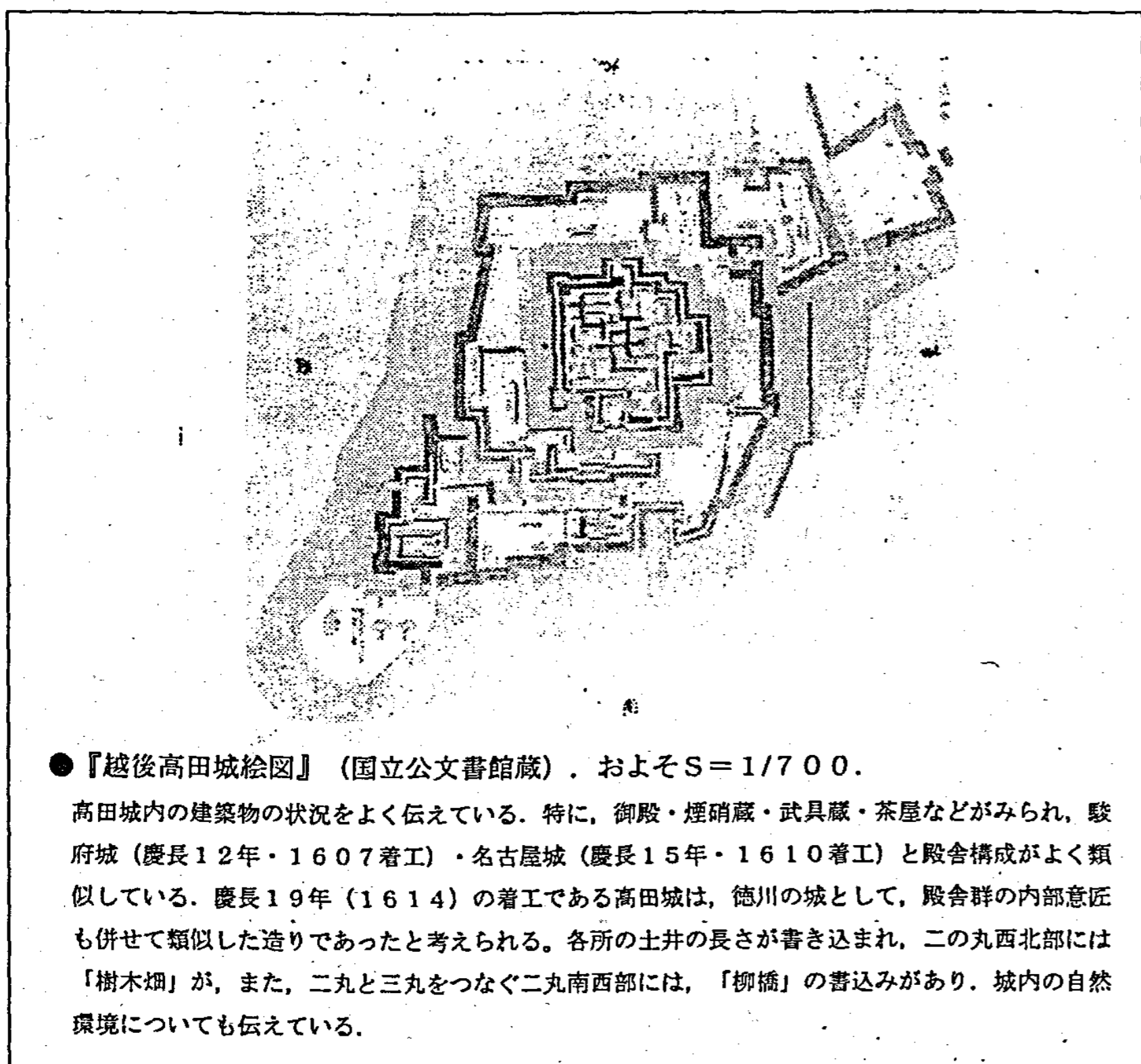
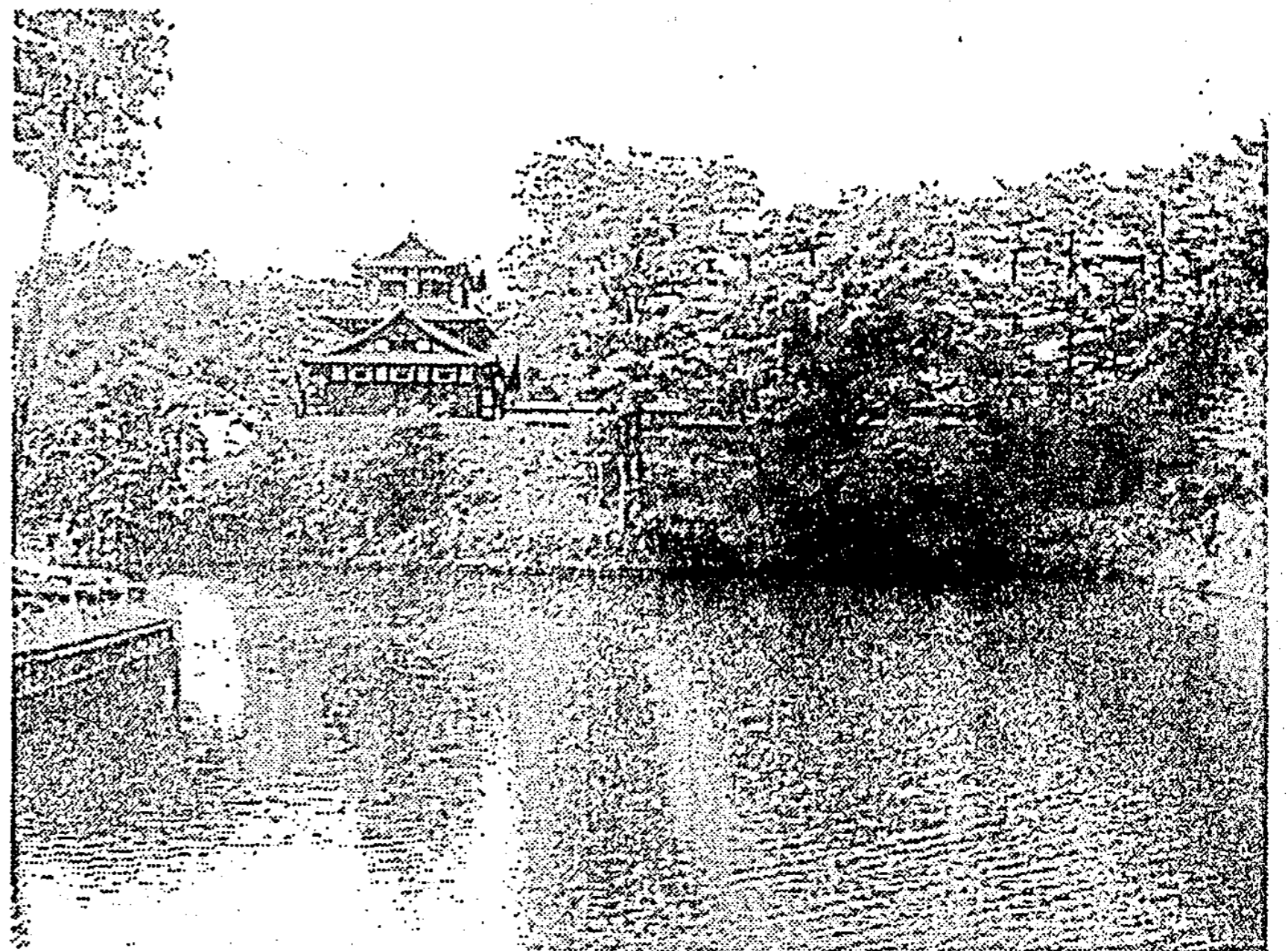


図2 『越後高田城絵図』（国立公文書館蔵）



△①土井

平地が広がる高田は、同時に地下30m程度までが軟質な地盤となっている。石垣を避け、城の堀を穿ちその土を土井として再利用するという形が取られたのも、当初より高田城の地盤がよく認識されていたためと考えられる。土井の高さは『越後高田城絵図（上越市立高田図書館蔵・1645年頃）』によれば、本丸部分に「土井高サ2間半（約4.5m）」を書き込んでいる。現状は、ほぼ当時の地形状況を残しており、本丸西南隅に天守が復元されている。

図3 △①土井（高田城本丸）



●④土取場

城下町絵図（1700年頃）に「土取場」（約500坪）の書き込みのあった部分は、向橋川、青田川が合流して関川に繋がる部分である。この土取場の現状は、鉄工場、製材工場など工場が目立つところであって、軟弱な地盤は藩政時代と変わらないとみられる。時に、川の氾濫による浸水も考えられるためであろうコンクリートのブロックによる2段の護岸で土手が固められている。藩政時代の土取場は、このように軟質な土を求める所として選定されたと判断される。

図4 ●④土取場（向橋川・青田川合流部分）

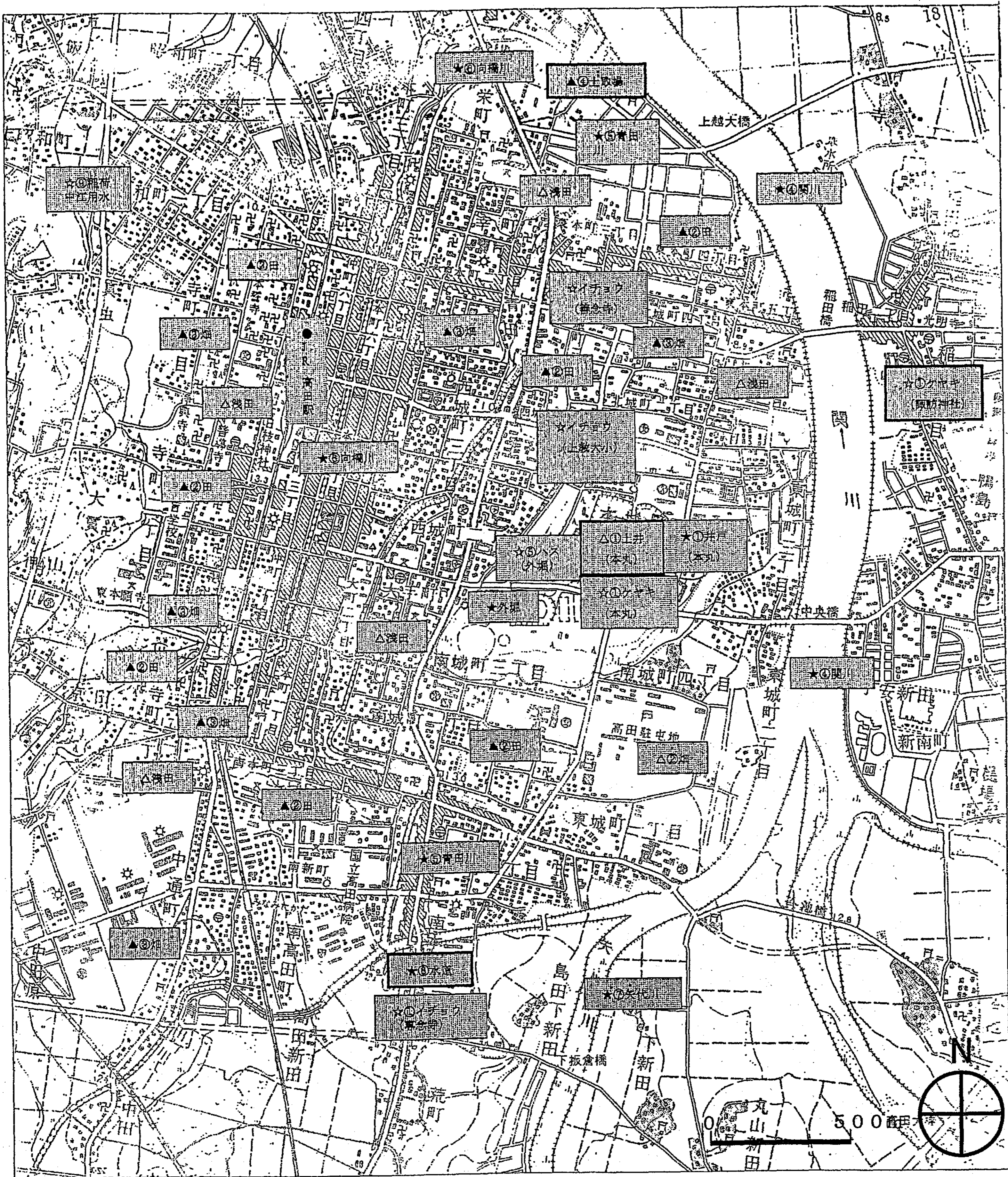
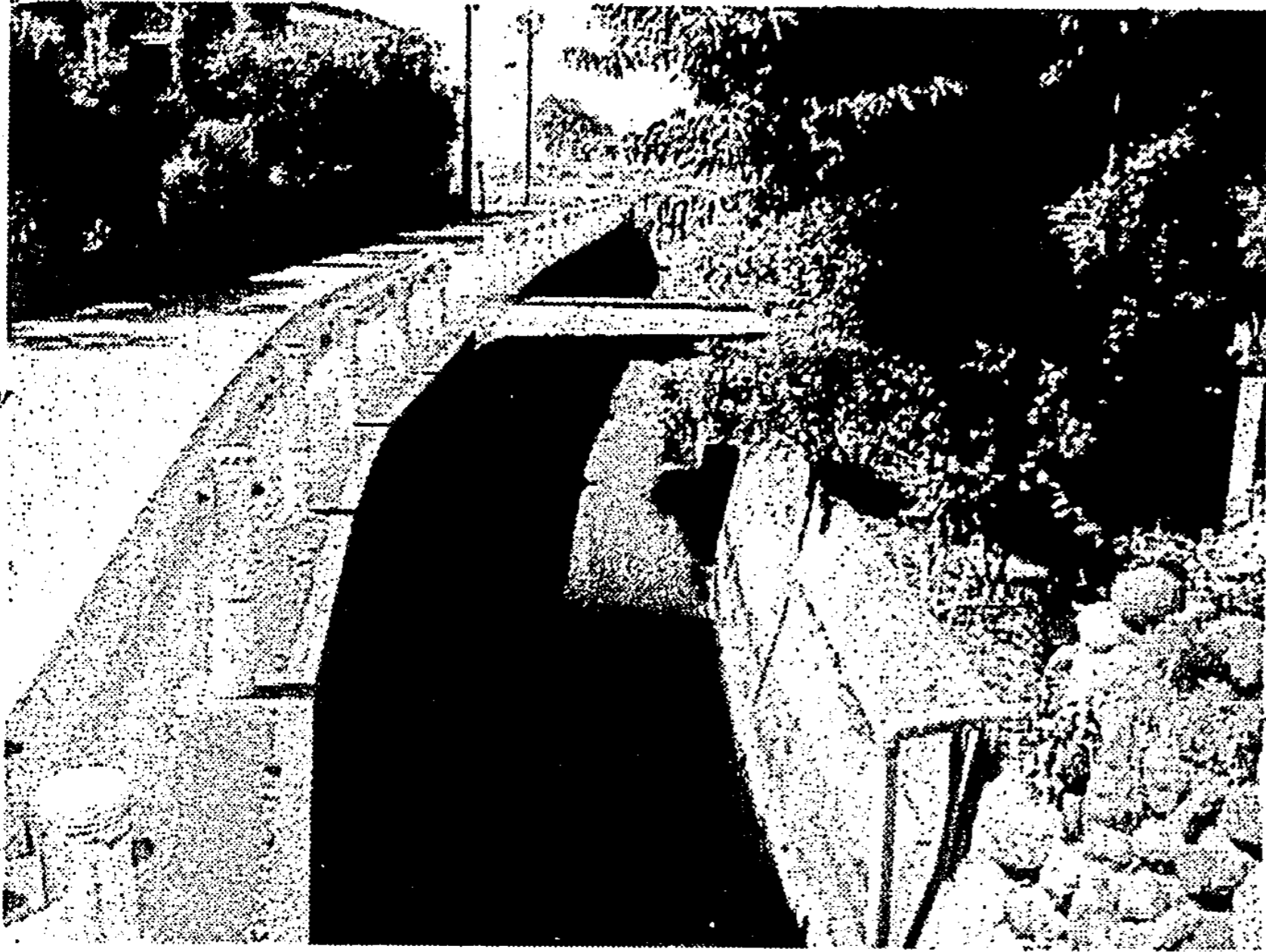


図7 高田城下町の自然環境位置図

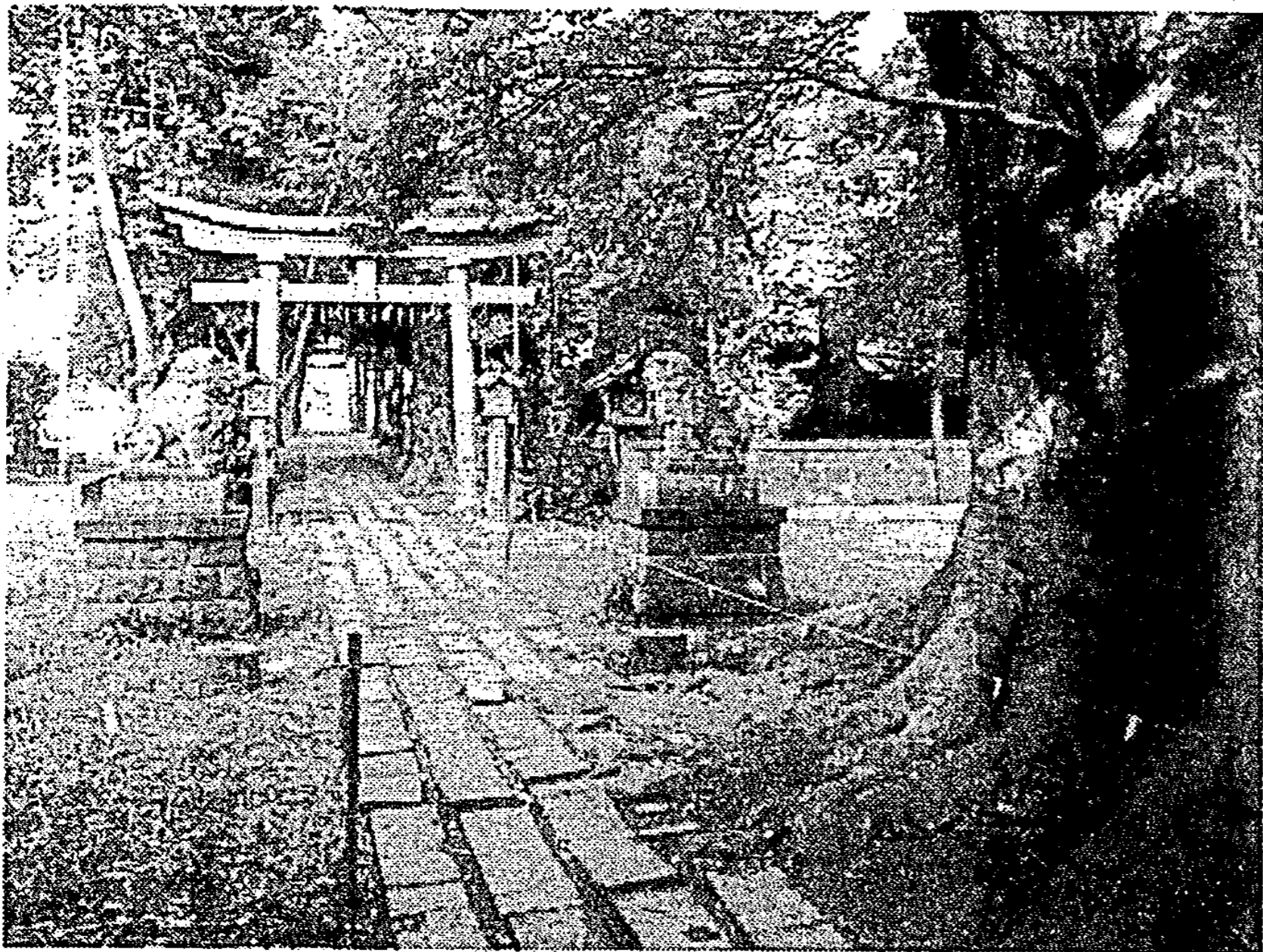
(地形図：上越市役所平成9年3月発行による)



★水道⑧ (伊勢町西側)

延宝7年(1679)の『伊勢町出雲町絵図』にみられる幅3尺5寸の水道は、南西部の八代川より引き込んだとみられる。深さが2.5m程度あり、当時は、階段状をもつカワド形式での水利用が行われていたと考えられる。水道は現状と同様、西北部を走る青田川へ流れていたと判断される。高田は、地形が平地なためか水の流れがゆるく、浸水を考えてかっつての水道も現状のように深く掘られた形状であったと推察される。

図5 ★⑧水道 (伊勢町西側)



☆①ケヤキ (諏訪神社)

藩城下町絵図には、政時代当初は「百姓」と書込みがあるが、のちの絵図では「上稲田町」とあり町屋敷となっている。この町屋敷の西側にある。樹高35m・樹周3m・樹齢700年以上といわれる(写真右手)。市内最大の御神木といわれ、現在、新日本名木100選の1つ。現状では、同様のケヤキの巨樹が他に2本あり、また、藩政時代からの樹木と考えられる樹周1m程度のモミの大木もある。

図6 ☆ケヤキ (諏訪神社)

4. あとがき

城下町絵図のような古絵図は、全体としてその活用面が遅れている。生活環境に対する観点、歴史的環境に対する社会的な求めや関心が広がりつつある現状を見ると、GISを取り入れた活用方法をさぐることは重要なことと考えられる。

ここでは、かかる観点より試行的にGISの構築を行ったが、今後は、地域住民からのネット上での情報をも取り入れ、自然環境項目の内容や解説などに改善を加えつつより充実させてゆくべきであろう。

【謝辞】

関係資料の調査にあたり、国立公文書館・上越市立図書館のご高配を頂いた。記して深く感謝申し上げます次第である。

参考文献

- 1) 新潟県環境保険部環境保険課編(1992)『新潟の巨樹』、新潟県環境保険部環境保険課刊。
- 2) 北陸地方土木地質図編纂委員会編(1990)『北陸地方土木地質図解説書』、(財)国土開発技術研究センター刊。
- 3) 北陸地方建設局北陸技術事務所編(1981)『新潟県平野部の地盤図集(柏崎・高田平野編)』、(社)北陸建設弘済会刊。
- 4) 上越市花と緑のまちづくり協議会事務局編(1980)『上越市の名木・巨木/第1集』上越市花と緑のまちづくり協議会刊。
- 5) 高田市史編集委員会編(1958)『高田市史・第1巻』、高田市役所刊。